

第705回番組審議会報告

2026年2月3日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、小川明子委員、川瀬慈委員、小島幸保委員、曾我部真裕委員、津村記久子委員、長谷川豊委員

■毎日放送出席者

虫明社長、酒井常務、中野常務、高山取締役、奥田取締役、羽根報道情報局長、井ロスポート局長、和田スポーツ部長、樽松チーフディレクター、東野コンプライアンス局長、東郷広報部長、中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組

「KOBELCOスポーツスペシャル

花園魂！全国高校ラグビー大会ハイライト」（2026年1月5日放送分）

【各委員の主な意見は次の通り】

- *試合は非常にドラマチックだった。また選手と家族のやり取りは高校生らしくとても楽しく拝見した。
- *田中史朗さんの解説が簡潔で要点を押さえていてよかった。嫌味がなくすごく好感が持てた。
- *せっかく田中さんが来ているのだからハイライトをもっとしっかり見たかった。これでラグビーファンが満足するのかなという疑問が残った。
- *例えラグビーに詳しくなくても、プレーのどこがすごいのかという解説は聞いてみたいのであまりエピソードに頼り過ぎない方がいいのではないか。
- *見る側がラグビーに詳しくなくても、好きな人同士がものすごくマニアックなことを話していると、楽しそうで面白く感じる。
- *U18東西戦はラグビーの裾野を広げるという意味で、すごく魅力を伝えるヒントがあるように感じた。部員わずか5人の新宮高校の選手の活躍を見て応援したくなった人がとても増えたのではないかな。
- *番組は部活動の先細りに対する問題提起になっていて、示唆的な着眼点だと思った。
- *「体が小さくても頑張っている」と小ささばかりを強調するのではなく、大きい人から小さい人までいろいろな選手がそれぞれのポジションで活躍でき

- るスポーツであることを強調してもよかったのではないか。
- * 東福岡高校のゴリラを使った演出は引き込まれた。
 - * ナレーションで「情熱漢」、監督が「男前」、チームメートが「熱い男」と言うなど「男」とをととても強調していた。この番組のサイトも「重戦車」や「体を張る」などのキーワードが出ていて、ラグビーはととても男性性の強いスポーツだと感じた。
 - * 「怪物十傑」は工夫してると思ったが、チームにとってクローズアップされるのがひとりの選手というのが、少しもったいないと感じた。
 - * まず人物に焦点を当てて、その後に試合をやるので、どうしても一方のチームに感情移入して見てしまう。公平に見てもらうために例えば試合を先に見せてから人物に焦点を当てるのはどうだろうと思った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 今年ラグビーのルールがよくわからない方を意識して作ったが、詳しくなくてもプレーのすごさは知りたいという意見をいただいたので、改めてプレーの解説はしっかりやるべきだと感じた。
- * キャッチーな言葉をつけて、初めて見る高校生のプレーヤーたちを印象づけようとしたが、言葉が比較的重たい格闘技系になってしまったため男性性が強調されてしまった。
- * 詳しくて好きな人同士がわかりやすく話すことによって、これまであまりラグビーに接していなかった人にも親しみを持っていただけると感じたのでこれからも努力していきたい。

以上